

## 「ロシアのウクライナ侵攻に涙と怒り」

2022年04月04日

『週刊金曜日』の4月1日号の「論考」に、私の投書が掲載されたので、転載したい。

〈ロシア軍に攻撃されているウクライナの人々、ことに、子どもたちの痛々しい姿を見ると、涙が止まらなくなる。また、体の不自由な人たちが、戦禍を逃れようと避難している姿を見ると、同情に耐え得ない。涙と同情は、プーチンに対する怒りのせいである。こんな理不尽があつていいのか。断じて許せない命への冒涇、国際法違反の暴挙である。

21世紀、グローバル化した時代に、国境線を超えて他国に侵攻するなど、あり得ないと思っていた。ところが、プーチンはウクライナ東部の親ロシア人保護のために、救援部隊を送ると言いつつ、ウクライナ全土の軍事施設を攻撃し、公的な建物、民間の建物にまで対象を広げ、最近では、学校、病院までも、無差別な攻撃対象にしている。ウクライナ人は寒さの中、食べ物、飲み物、医薬品に欠乏し、悲惨さは増幅し続け、悲しみ、怒りは計り知れない。もはや侵攻などではなく、侵略戦争である。

プーチンは、ロシアの安全が脅かされるので、自衛のためだと言っている。権力と経済力が弱体化したロシアに我慢できず、ベラルーシのようにウクライナを支配下に置き、「大ロシア」を夢見ているのではないか。人間を非道に殺害する侵略戦争はプーチン一人の思惑によるものと見える。

暴虐な戦争を止めなくてはならない。ロシアでは、政権に都合のいいものだけを流し、不利な情報は遮断し、違反する者には刑事罰を与えているという。現代戦は、情報戦であることをまざまざと見せつけている。ロシアからの「戦争反対、プーチン止めろ」の声は起きにくいようだ。経済制裁がロシアの経済を混乱させ、戦争中止を可能にするのではないか。経済制裁は時間がかかり、制裁する方も打撃を受けると言われるが、武力対決は無辜の犠牲者が出る。時間がかかり、犠牲を負うことを覚悟で、世界の国々が協力し、強力な経済制裁を科してほしい。

ロシアの世界からの孤立は避けられない。経済だけでなく、文化、芸術、スポーツでも締め出されていく。有能な人材もロシアから離れていく。ロシアの受ける国家的マイナスは限りなく大きく、プーチンの蛮行は歴史に長く記憶されるだろう。

今、世界は歴史の分かれ目に立っている。プーチンは過ちを認めない頑固な性格のようだが、ロシアの侵略戦争を成功させたら、世界の法的秩序は崩壊する。独裁者たちは力を振るえば、欲望を達成できると思ってしまう。プーチンの野望を阻止することによって、世界の安全が保障されることを肝に銘じたい。

そのために、私たちは小さな声でも、「戦争反対、プーチン 軍を引け」と言い続けたい。そして、ウクライナを支援するため、痛みを負うことを厭わない。ウクライナ人の苦しみはひとごとではなく、私たちに直接関わることだと、深く認識したい。〉

ウクライナの現状は悲惨この上ない。いつプーチンの侵略戦争が終わるのかと、毎日、テレビに見入ってしまう。人の命をこうまで簡単に奪えるものかと、暗澹とさせられる。19世紀には領土を広げれば経済的な権益が得られると、大国は領土拡大戦争に血道をあげた。しかし、21世紀の戦争では、利益を得ることは不可能で、勝者はいない。無辜の人を殺戮し、自然と文化を破壊する戦争は一刻も早く終焉することを切に望む。今回の戦争で、情報や報道の働きが大きいことを知らされた。真実の報道とフェイクニュースの識別は困難であるが、事実を踏まえた良心的な報道が平和を作り上げていくことに違いない。